

人形アニメーション創成期の人形作家

小室一郎展

2025. 10. 11土 — 11. 9日

デジタルアーカイブ

高鍋町美術館
TAKANABE MUSEUM OF ART

ごあいさつ

高鍋町美術館では、地域に根差した作家の調査と研究を継続的に進めており、地域の特性に基づいた多様なジャンルの企画展を開催してまいりました。

このたび、当館の企画展としては初の「宮崎県ゆかりの人形作家」に焦点を当て、戦後日本の人形アニメーション創成期において活躍し、人形作家として生涯を貫いた小室一郎に注目します。

小室一郎は1930年、台湾に生まれました。1952年に、戦後人形劇の歴史において画期的な活動を展開した劇団「人形座」に入団。その後はMOMプロダクションやビデオ東京などで人形映画の人形を製作しました。特に、少年時代のティム・バートン監督にも強い影響を与えたといわれ、人形アニメーションという新分野を切り開いた日本アニメーション監督の持永只仁とのタッグで手掛けた、「ルドルフ 赤鼻のトナカイ」(1964年)をはじめとしたアメリカのテレビや映画のための映像作品は今もなお世界中で愛されています。

本展は、日本の人形アニメーション創成期において重要な役割を果たした小室一郎の、人形作家としての初期から晩年までの活動を整理し、貴重な人形作品、映像作品、ポスター、スチール写真、資料を一堂に会する展覧会です。

一人の人形作家の仕事と、表現の変遷をとおして、美術と社会の関わりやアニメーションの変容とともに、時代を越えて変わらないものについて考える機会となれば幸いです。

おわりに、本展の開催にあたりまして、大変多くのご協力、ご助言を頂きました、関係者の皆様に対し、心より御礼申し上げます。

2025年10月11日

高鍋町美術館

謝辞

謝辞

本展の開催にあたり、作家の調査、作品の出品など様々な面でご協力を賜りました下記の方々に、深く感謝の意を表します。

井村（石井） マリ子
太田 文代
小澤 節子
小室 工
小室 美保子
瀧見 英明
坂本 光三郎
角 和博
田川 和生
田畑 博司
田畑（喜多） 京子
中根 雅子
淵上 サトリーノ
眞賀里 文子
靱山 幸士

彩工房
おもちゃ映画ミュージアム
劇団員の火
国際放映株式会社
佐賀大学
人形劇団オフィスやまいも
人形劇の図書館
マガリ事務所
持永只仁アニメーション研究会

（個人・団体別、五十音順、敬称略）

凡例

凡例

- ・本書は「人形アニメーション創成期の人形作家 小室一郎展」(令和7年10月11日～11月9日 高鍋町美術館)の開催に際し出品された作品について収録している。
- ・図版ページの各作品情報については作品番号(順路)順に、図版、作品名の順に記載している。
- ・図版ページにて図版を並列している場合は、上から下、左から右の順に掲載している。
- ・出展作品の所蔵先については、p.5より掲載している図版部分に明記している。なお、小室一郎や小室と関わる人物が旧蔵していたことが判明している作品については、その旨を記載している。その際、敬称は略している。

目次

目次

ごあいさつ	p.1
謝辞	p.2
凡例	p.3
目次	p.4
函版	p.5
人形作家・小室一郎の調査の経過と顕在化 した作家性についての一考察	p.34
年譜	p.38
展示風景	p.40
作品リスト	p.45
展覧会情報	p.48
写真提供	p.51

第1章

人形座時代

1948年に愛知大学に入学後、学生人形劇サークルに入団した小室は、大学を中退し1952年に人形座に入団しました。

人形座は、詩人で劇作家の木村次郎を中心に、子どもたちにすばらしい人形劇をと生まれました。5人で始まった劇団は、やがて若者たちの心をとらえて大きな集団へと成長しました。小室一郎は人形座で美術とアコーディオン演奏で活躍し、約10年間、お金はなかったけれど情熱に満ちた日々を過ごしました。

人形座では日本の民話「あのさま」「瓜子姫とあまのじゃく」をはじめ、中国の民話「鏡の中の仙女」やアイヌの民話「春楡（チキサニ）の上に太陽」などを上演しています。まだ公民館やホールがなく、学校が唯一の文化センターとして機能していた時代に、多くの人々に生の人形劇を見せたいと願った若者たちは、“子どもの感動が未来をつくる”を合言葉に東西南北をかけめぐりました¹。

人形座の劇団員には、その後、NHK教育「できるかな」でゴン太くんを務めた人形劇俳優の井村淳や、「ひょっこりひょうたん島」でサンデー先生を操作した人形劇俳優の石原ひとみ、小室と同じく美術を担当し解散後に絵本作家となった田畑精一などが在籍しました。

小室は「大樽小樽」（1953年）、「一寸法師」（1955年）、「おかあさんの錦」（1957年）、「錦の中の仙女」（1958年）、「春楡の上に太陽」（1959年）、「ヘンゼルとグレーテル」（1962年）の美術を担当しました。

なかでも、「春楡の上に太陽」は、1959年にはNHK「夏休みこども劇場」のなかで放映されました²。また、この劇を原案として1968年に、高畑勲（当時は東映動画に在籍、のちにスタジオジブリの設立に参加）の初演出（現在でいう監督）作品となるアニメーション映画「太陽の王子 ホルスの大冒険」が公開されました³。

この一連の流れは、当時のテレビ人形劇からアニメ映画への移行期であったことを象徴する出来事といえますが、残念ながら人形劇「春楡の上に太陽」の映像は現存していません。

¹ 人形座再発見の会（責任 田畑精一）『人形再発見』2004年、p.5。

² <https://www.nhk.or.jp/archives/chronicle/detail/?crnid=A195908280930001300100> (2025年12月9日閲覧)

³ 鷺谷花「美しい悪魔の妹たち」『ユリイカ7月臨時増刊号第50巻第10号』青土社、2018年、p.260。



右から
ポスター/第1回公演「楽しい民話の人形劇」、「錦の中の仙女」、「春楡の上に太陽」
人形劇の図書館蔵



左から
人形/モシロアシタ、チキサニ、オキクルミ
石井マリ子旧蔵、人形劇の図書館蔵

【物語あらすじ】

「春楡の上に太陽」

泉のほとりの春楡の大樹の下で、オキクルミと、不思議な少女チキサニが出会います。赤ちゃんのときにその樹の下で泣いているところを拾われた、と語るオキクルミに、チキサニは自分の名はその樹と同じ「春楡」(チキサニ)であると教え、姉弟かもしれないと言います。住んでいた村が疫病で全滅し、独りぼっちになったと語るチキサニを、オキクルミは自分の村に連れ帰ることを約束します。しかし、オキクルミがその場を離れると、銀の狼に化けたチキサニの兄の悪魔モシロアシタが登場します…。悪魔と、村を守って戦う少年と、村の生活に愛着をもつ悪魔の妹を中心として、アイヌの生活を描いた物語。

【作品情報】

「春楡の上に太陽」

1959年

脚本 深沢一夫

演出 井村淳 手島修三

美術 小室一郎

音楽 丸山亜季

出演 大井六太 (オキクルミ) 石井マリ子 (チキサニ) 河合さき子(モシロアシタ)

田島嘉雄 (ケムシリ) 石原仁美 (フレップ)

第2章

テレビ・映画人形アニメーション時代

人形座の収入の大半は全国の小中学校公演によるものでしたが、それによって劇団の財政を維持していくことは困難でした。これに行き詰まり、人形座は解散し、その後、借金返済のため、有志によって上演活動やテレビ出演が行われました⁴。人形座が解散を発表した1963年は日本で初のテレビ長編アニメーション「鉄腕アトム」の放送が開始された年です。時代は、テレビや映画のアニメーション全盛期へと進んでいきます。

同じころ、アメリカの映画製作者アーサー・ランキン・Jrとジュールス・バスが、第1回バンクーバー国際映画祭で児童部門の最高賞を受賞した「ちびくろ・さんぼのとらたいじ」を見て、日本の人形アニメ作家である持永只仁のテレビの人形アニメシリーズ制作を依頼し、持永はMOMプロダクションを設立してテレビ版の短編「ピノキオの冒険」を制作しました。ついで、劇場版長編を依頼し、この作品の成功でTV版長編作品を多数制作するようになりました。

小室は持永の映像作品の人形製作を手掛けることとなります。小室は当時まだ30代前半で、「ルドルフ 赤鼻のトナカイ」のパペットデザインと製作を手掛けました⁵。ここでは、すべての登場キャラクターを合わせて約70体のパペットが製作されました。他にも、ランキン・バス・プロダクション作品で1作品につき200体を超えるパペットを製作したこともあるといわれています。

小室は送られてきたラフスケッチ程度のデザインをもとに、撮影に入る1か月前から人形づくりに入り、チェックと修正を繰り返して作り上げていきました。アーサー・ランキン・Jrは日本に何度も足を運び、小室が製作した人形を見て喜びました。この人形は、顔の部分には桂という素材を、芯材にはボールベアリングやなまりが使われており、丸みを意識して作られていました。

国内では、「コメットさん」という実写、特撮、動画に加えてコマ撮り人形アニメーションも駆使した画期的な作品が生まれました。小室は、同作品のベータン兄弟やキン婆さんなどを製作しました⁶。「コメットさん」は高視聴率人気番組となり、第1回テレビ大賞最優秀バラエティ喜劇番組賞をはじめ、数々の賞を受賞しており、メキシコでは今なお国民的人気を誇っています。

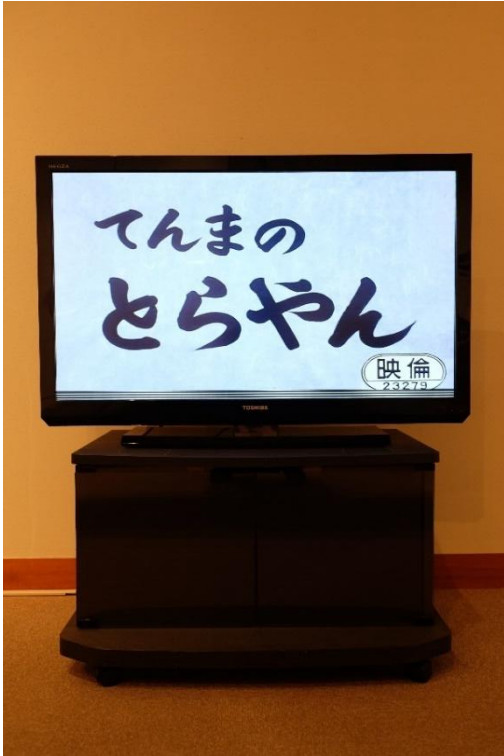
⁴ 人形座再発見の会（責任 田畑精一）『人形再発見』2004年

⁵ THE MAKING OF THE RANKIN/BASS HOLIDAY CLASSIC: RUDOLPH THE RED-NOSED REINDEER (English Edition) miserbrospress,2001.

⁶ 靱山幸士氏からの聞き取り、メールにて、2025年9月1日。

図版

小室はその後、1968年にビデオ東京で人形製作を開始し、1971年に公開された「てんまのとらやん」（第26回毎日映画コンクール大藤賞受賞/ビデオ東京プロダクション自主制作作品）や1979年に公開された「くるみ割り人形」（サンリオ制作）など、多くの映像作品の人形を手掛けました。



映像「てんまのとらやん」（17分）田川和生蔵

【物語あらすじ】

「てんまのとらやん」

とらやんの勤め先はうなぎ屋です。あるとき、うなぎを捌こうとしたら、うなぎが逃げてしまいました。うなぎは、川へ、大根畑へと、鬼ごっこのように逃げていきます。とらやんは力あまって、大根を勢いよく抜くと、大根ごと宇宙まで飛び出してしまいました。その大根を離すと、今度は雲の上にいる雷様のお屋敷へ。雲から落ちて、今度は海のなかへ入ると、竜宮城のまえでうなぎを発見します。通りがかったサメと格闘していて、いよいよ危ないところに、釣り人がとらやんとサメとうなぎを吊り上げました。とらやんは助かって、ようやくうなぎを捕まえました。とらやんのおかしな冒険のお話。

【作品情報】

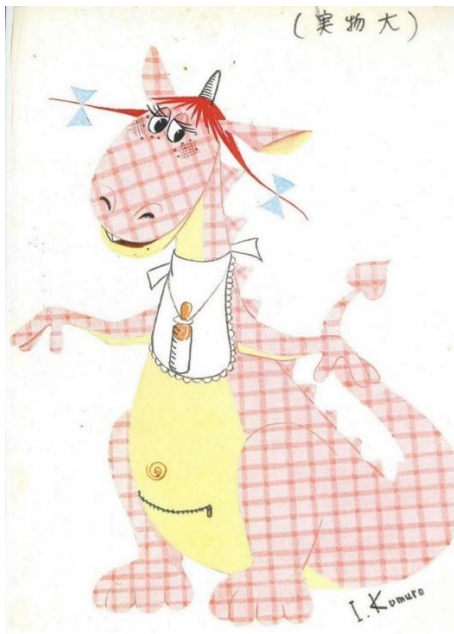
「てんまのとらやん」

1971年制作

第7回モスクワ国際映画祭児童映画部門銀賞

図版

同映画祭ソ連作曲家同盟特別賞
 第3回モスクワ児童映画祭審査員賞
 第26回毎日映画コンクール大藤賞
 1972年度教育映画祭最高賞
 制作 河野秋和
 演出 中村武雄 河野秋和
 アニメーション 中村武雄
 人形 小室一郎
 撮影 高森菱児
 美術 山下宏



デザイン画 (複製) /ベータン
 いずれも国際放映蔵



国際放映 年賀状



ブラザーカタログ表紙 靱山幸士蔵



「コメットさん」撮影風景 糸山幸士蔵



左から

人形/ベーターン A タイプ 築地米三郎（特撮監督）旧蔵、靱山幸士蔵

人形/ベーターン第4号ロンバリ 梅村幹比古（プロデューサー）旧蔵、靱山幸士蔵



週刊平凡1967年9月28日号

脚本「コミットさん 14話」

脚本「コミットさん 55話」いずれも靱山幸士蔵

【物語あらすじ】

「コミットさん」

ベーター星からきた宇宙のいたずらっ子・コミットさん。イタズラが過ぎた罰として課せられた研修によって地球にやってきた。コミットさんは、ある一家・河越家に家庭教師と

して住み込むことに…。

- #1 星から来たお手伝い
- #2 ママ夢をもって
- #3 ボクは球拾い
- #4 怪盗ドロゴン退治
- #5 数字ムシャムシャ漢字はパクリ
- #6 地球人のわからんちん
- #7 ワンちゃんバンザイ！
- #8 お化けなんか恐くない
- #9 間抜けなお手伝い
- #10 パラソル空を飛ぶ
- #11 ふしぎなふしぎな女の子
- #12 何んでもかんでもハイ.ハイ
- #13 S.O.S.危機一発
- #14 ヨットでゴーゴー
- #15 金の卵みつけたあ
- #16 ぼくたちの家を作った
- #17 強敵.現わる!!
- #18 いまにみている
- #19 うそはだめ!!
- #20 オモチャの反乱
- #21 正義の味方は辛い
- #22 もう子どもじゃない
- #23 歯医者さんこわい
- #24 ドレイは嫌だ
- #25 清き一票を！
- #26 来てよ.サンタクロース
- #27 お正月には凧あげて
- #28 ぼくたちの秘密
- #29 怒るのはナーシ
- #30 兄ちゃんイバルな！
- #31 がんばれちびっこ007
- #32 留守番はまかせろ
- #33 いじわる合戦
- #34 ママなんてえイヤー
- #35 星から来たおばあさん

- #36 雪のおばけが出たぞ
- #37 ちびっこ戦争
- #38 春のクリスマス
- #39 クレヨンの夢
- #40 家出バンザイ
- #41 卵泥棒は誰だ
- #42 アヒルの行進曲
- #43 助け合い作戦
- #44 かけろ！メリーゴーランド
- #45 飛び出せ鯉ノボリ
- #46 なまけものだあれ
- #47 チェック・マンを捕えろ!!
- #48 妖怪がでたぞ！
- #49 空へ飛んだ自動車
- #50 アリの国探険旅行
- #51 ふしぎなふしぎな笹舟
- #52 突撃てるてる坊主
- #53 怪物をやっつけろ!!
- #54 ミクロ人間SOS!!
- #55 出たぞ！チビッコ・ギャング
- #56 サンダー・コングの逆襲-空巣をやっつけろ-
- #57 悪魔・ノック・ダウン-虫歯をやっつけろ！-
- #58 ベータン救出作戦-誘拐犯をやっつけろ！-
- #59 宿題をやっつけろ!!
- #60 妖怪大行進
- #61 ニャン太郎三度笠
- #62 お見合い大作戦
- #63 妖怪の森
- #64 ガイコツ砦の決斗
- #65 ハチの子を救え
- #66 危機一発Uターン
- #67 世紀のスピードレース
- #68 買物珍道中
- #69 ラブレターでガッポ.ガッポ！
- #70 チャンスをねらえ！
- #71 すてきなすてきな大冒険

- #72 僕は挑戦者
- #73 親孝行ってなんだい!
- #74 おとぼけ叔父さん
- #75 わんぱく受験生
- #76 小さい小さいものの魂
- #77 バイバイ落葉クン
- #78 いつか通った雪の街
- #79 大きな大きなプレゼント

【作品詳細】

「コメットさん」

1967年7月3日 - 1968年12月30日放映

脚本 佐々木守ほか

監督 山際永三ほか

出演者 九重佑三子 蔵忠芳 河島明人

声の出演

八木光生 朝井ゆかり 千々松幸子

音楽

湯浅譲二 田代雅士

人形アニメーション 眞賀里文子ほか

プロデューサー

梅村幹比古（国際放映） 橋本洋二（TBS）

編集 池月正

制作 国際放映 TBS



デザイン画/ルドルフ 小室一郎旧蔵



デザイン画/フロスティ 小室一郎旧蔵
いずれも小室工蔵



左から

人形/サンタクロース

人形/ドナー（ルドルフの父） いずれも持永只仁旧蔵、持永只仁アニメーション研究会蔵



人形/ミセス・サンタクロース 持永只仁旧蔵、持永只仁アニメーション研究会蔵

【物語あらすじ】

「ルドルフ 赤鼻のトナカイ」

主人公のルドルフは、生まれながら赤く光る鼻を持つトナカイ。大人になった、サンタクロースのソリを引く一員になるために、幼い頃からトナカイたちが競い合う“レインディアゲーム”に参加しますが、赤い鼻のせいでみんなからは、はぐれ者扱いに。それからは何をしても、自分の鼻がトラブルを起こすのだと、落ち込んでしまうこともしばしば。それでも、トナカイのクラリスや、妖精のハーミー、冒険家のユーコン・コーネリアスらと出

図版

会って友情を育み、自分らしさを取り戻しながら、たくましく成長していきます。

【作品詳細】

「ルドルフ 赤鼻のトナカイ」

アメリカ放映 1964年12月6日 (NBCTV)

日本放映 1967年12月24日 (NHK)

監督 ラリー・ロメール

制作 アーサー・ランキン・Jr

脚本 ロメオ・ミューラー

原作 ロバート・メイ

音楽 ジョニー・マークス

演出 持永只仁 長島喜三

MOMプロ ビデオ・クラフト 電通映画社



デザイン画/デンティ・ドイルとレプリカンのブラーニー 小室一郎旧蔵、小室工蔵

【物語あらすじ】

「ウィリー・マックビーン魔法の機械」

大天才ラスプーチン・フォン・ロットン教授は歴史を変えるため自身で発明したタイム・マシンで出発します。この企てを知った教授の飼っていた猿のパブロは、タイム・マシン

の設計図を盗み出し、ウィリー少年と協力して、タイム・マシンを組み立て、教授の跡を追ってタイム・トラベルの旅に出ます。西部アリゾナ、スペイン、イギリス、古代エジプト、そして未来宇宙へと向かいます。

【作品詳細】

「ウィリー・マックビーン魔法の機械（ウィリーマックビーン冒険）」

1963年制作

アメリカ公開 1965年6月23日

監督 アーサー・ランキン・Jr 長島喜三

脚本 アーサー・ランキン・Jr アンソニー・ピーターズ

制作 アーサー・ランキン・Jr

演出 持永只仁 浅野竜麿

人形アニメーター 持永只仁 中村武雄 岡本忠成 田畑博司 及川功一

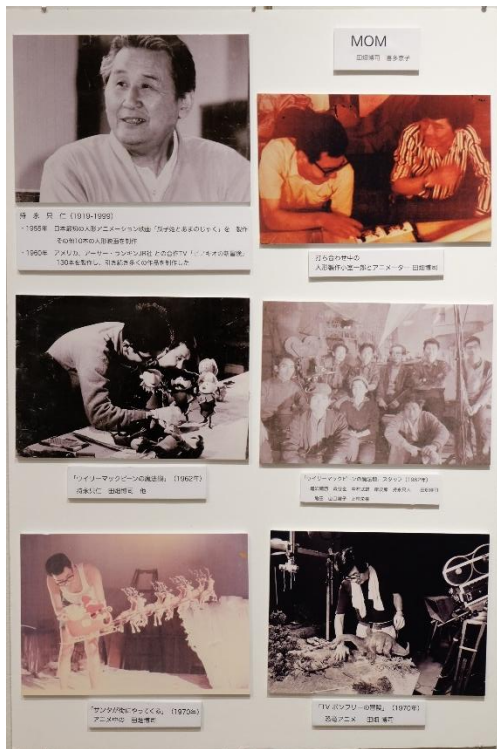
アソシエイトプロデューサー:ジュールス・バス、ラリー・ローマー

音楽 エドワード・トーマス

アニメーション監修 持永只仁 (クレジット: Tad Mochinaga)

振付 エドワード・ブリンクマン

製作 電通映画社 ビデオ・クラフト社



MOM プロダクション写真資料 田畑博司・田畑京子蔵



台本「ルドルフ 赤鼻のトナカイ」

絵コンテ「ルドルフ 赤鼻のトナカイ」

構造図「ルドルフ」⁷

人形デザインに関する資料/フランケンシュタイン

人形デザインに関する資料/少年⁸

絵コンテ「ウィリー・マックビーンと魔法の機械」

いずれも持永只仁旧蔵、持永只仁アニメーション研究会蔵

⁷ 小室の製作の助手を務めた喜多京子が描いた図をもとにデジタル化した用紙。書籍『THE MAKING OF THE RANKIN/BASS HOLIDAY CLASSIC: RUDOLPH THE RED-NOSED REINDEER (English Edition)』（2001年）にも類似した図が使用されている。

⁸ トレーシングペーパーに鉛筆書きされたもの。作者不明。



MOM プロダクションおよびビデオ東京の写真資料
田川和生蔵



「サンタの人生と冒険」(1985年)
右からランキン、小室、バス、荒木



詳細不明
中央が小室、右端が喜多京子



「サンタが街にやってくる」(1970年)
小室の製作室にて



「まけうさぎ」(1978年)
スタッフ写真 前から2列目、右から3番目が小室



スチール写真「ウィリー・マックビーンと魔法の機械」



人形/ウィリー少年（タイム・マシンあり）

人形/ウィリー少年（タイム・マシンなし）

人形/紳士（鎧）

人形/紳士（赤い服） いずれも持永只仁旧蔵、持永只仁アニメーション研究会蔵



スチール写真「ウィリー・マックベーンと魔法の機械」

スチール写真「ピノキオの冒険」

スチール写真「サンタが街にやってくる」

スチール写真「最初の雪降るクリスマス」



映像「人形誕生 CM 製作の記録（田無スタジオ）」（約7分）

田畑博司旧蔵、持永只仁アニメーション研究会蔵

MOM プロダクション時代にアニメーターの田畑博司が8ミリフィルムで撮影した、小

室一郎の制作風景。セイコーの商業を作るときの映像だという。映像のなかで小室の下で人形を製作している田畑(旧姓・喜多)京子は、手のゴムのところを作ったり、下唇を取り換えて言葉を喋らせる準備をしている。小室は MOM プロダクション時代の作品の人形の頭(かしら)をほとんど一人で作ったといい、緊急のときは保坂純子が助けた。



レーザー・ディスク「赤鼻のトナカイ ルドルフ物語」

DVD「ルドルフ・赤鼻のトナカイ」

絵本「ルドルフ・赤鼻のトナカイ」

絵本「ルドルフ・赤鼻のトナカイ」

DVD「サンタが街にやってくる」

ブルーレイ・ディスク「マッド・モンスター・パーティー (怪物の狂宴)」

DVDセット「クリスマス・クラシック」

ブルーレイ・ディスク「ナイトメア・ビフォア・クリスマス」(ティム・バートン関連資料)

ユリイカ7月号臨時増刊号 第50巻第10号(高畑勲関連資料)

いずれも持永只仁アニメーション研究会蔵

「マッド・モンスター・パーティー (怪物の狂宴)」は、映画監督で脚本家のティム・バートンが少年時代に強く影響を受けた作品である。ティムが原作やキャラクター設定を手掛けた「ナイトメア・ビフォア・クリスマス」の劇中に登場する幽霊犬のゼロは、鼻先が光るカボチャになっており、これは「ルドルフ 赤鼻のトナカイ」をモチーフにしたキャラクターと言われている。このように、持永只仁と小室一郎のタッグにより生まれた作品は、その後のアニメーション

界に大きな影響を及ぼした。

1959年に東映動画（現・東映アニメーション）に入社し、その後スタジオジブリで映画監督を務めた高畑勲は、1968年に公開の「太陽の王子 ホルスの大冒険」で長編アニメーションを演出（監督）。人形座による「春楡の上に太陽」（脚本・深沢一夫）が「太陽の王子 ホルスの大冒険」の原作となったものの、これまでほとんど内容を知られていなかった。近年は高畑の初演出（監督）作品として注目を浴び、研究者らによる調査が進められている。こうして、東映アニメーション映画の初期の代表作へと繋がっていったのである。

第3章

人形劇への回帰時代

人形座時代から交流のあった児童文学作家の松谷みよ子が手掛けた絵本「ちいさいモモちゃん」は1964年から始まり、装幀は小室一郎らの製作した人形によるものでした。版ごとに新しい人形を使って撮影し直され、どの版も同じような「傘をさしたモモちゃん」が表紙になっていますが、顔の表情や傘の角度などが微妙に異なっています。

1973年に松谷みよ子が手掛けた童話「お月さんももいろ」は、1986年に人形アニメーション映画として映像化され、小室はその際、人形デザインから製作まで手掛けています。

小室は他にも、1983年の歯磨き粉CM「ラカルト・ニュー5」（エスエス製薬）に登場する人形なども手掛けたとの情報がありますが⁹、当時の詳しい記録は残っておらず、確認することはできません。

1995年65歳となった小室は妻と共に、宮崎県内で生活していた息子夫妻のもとへと身を寄せます。しかしその後も製作意欲が尽きることはなく、東京都内にある劇団からの依頼を受けては劇団に泊まり込み、物語をもとにしてデザイン画から人形づくりまでを行いました。小室が製作した人形たちは現在も現役で活躍しており、子どもたちの感性や想像力を育み続けています¹⁰。

「大学時代に人形劇『オッペルと象』（人形劇団プーク）を観て、人形の可能性に痺れた」¹¹と語っていた小室は、晩年まで人形の可能性を信じ、人形作家として情熱を注ぎ続けたのです。

⁹ 小室工氏（小室一郎氏ご子息）からの聞き取り、電話にて、2025年4月9日。

¹⁰ 小澤節子氏（人形劇団オフィスやまいも）からの聞き取り、ファックスにて、2025年9月2日。

¹¹ 「小室一郎氏インタビュー」『Picture Friends 005 Rudolph The Red-Nosed Reindeer® ルドルフ 赤鼻のトナカイ』プチグラパブリッシング、2006年。



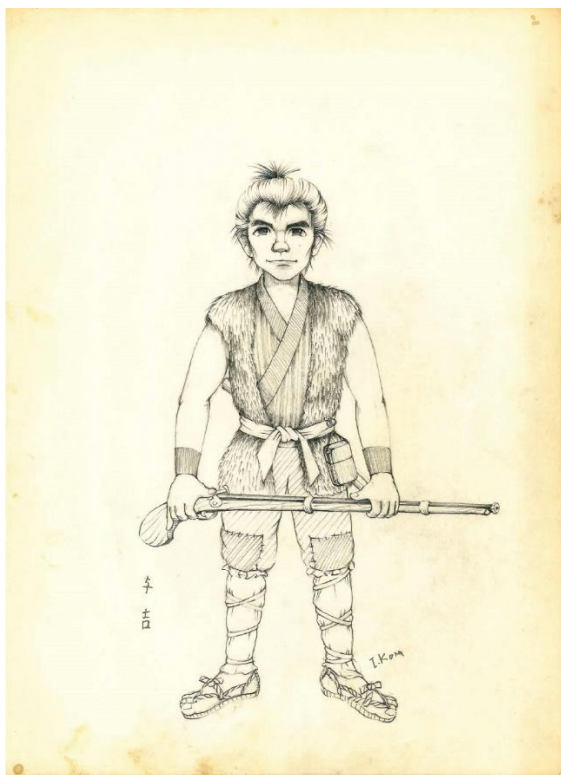
絵本「ちいさいモモちゃん にんぎょうえほん」
持永只仁アニメーション研究会蔵



スチール写真「モモちゃんとアカネちゃんシリーズ」
絵本「ちいさいモモちゃん」
絵本「モモちゃんとアカネちゃん」
絵本「ちいさいアカネちゃん」
絵本「モモちゃんとプー」
絵本は町立高鍋図書館蔵



デザイン画/おりの



デザイン画/与吉 いずれも小室一郎旧蔵、小室工蔵



映像「竜子姫物語」(35分) 劇団員の火蔵

映像「ヘンゼルとグレーテル」(45分) 人形劇団オフィスやまいも蔵

映像「長ぐつをはいたねこ」(46分) 人形劇団オフィスやまいも蔵



デザイン画/きつね 小室一郎旧蔵、小室工蔵



デザイン画/少女

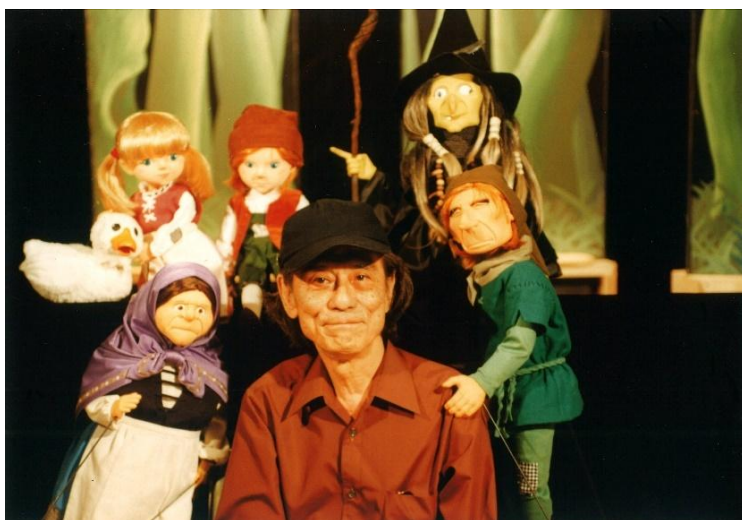


デザイン画/べっかんこ鬼 いずれも小室一郎旧蔵、小室工蔵



デザイン画/ゆき 小室一郎旧蔵、小室工蔵





「ヘンゼルとグレーテル」製作風景写真 人形劇団オフィスやまいも蔵

人形作家・小室一郎の調査の経過と顕在化した作家性についての一考察

2016年、夕刊デイリー新聞社の記者から、ある作家についての情報を得た。宮崎県内に没した一人の人形作家がおり、その方の関わった「ルドルフ 赤鼻のトナカイ」という映像作品は長年アメリカで愛されているとのことだった。記者の情報は絵本作家の瀧上サトリーノ氏からのものであった。

まったく初耳の情報で、図書館へ行きレファレンスをお願いしたが、小室一郎氏の情報は無いに等しかった。そこまで大きな仕事をしていて、こんなに情報がないのはなぜだろうと思ったが、作品の所在や著作権に関する情報が分からなければ展覧会は実現できないため、断念することになった。それでも気になって、調べる方法を思いつくたびに当たってみることにした。

まず「ルドルフ 赤鼻のトナカイ」から辿り、人形アニメーション作家の持永只仁氏の周辺から調べていった。持永氏については2017年に東京国立近代美術館フィルムセンターで企画展が開催されており、ひととおりの調査ができて印象をうけた。京都のおもちゃ映画ミュージアムに問い合わせ、持永氏が保管していた作品や資料は、現在は佐賀県にある持永只仁アニメーション研究会が保管していることが分かった。これは、小室氏の人生ではもっとも華やかな時期で、中期の作品および資料にあたる。

またインターネットの情報から、1950年代の人形劇団・人形座に小室氏が所属していることが分かった。そこにはメンバーであった井村淳氏の連絡先が書いてあり電話したところ、井村はすでに他界しており、同じく人形座に所属した井村の妻の石井マリ子氏と話をすることができた。筆者が宮崎県に住んでいることを話すと、石井氏は人形座時代に毎年1月から3月まで宮崎県内を回ったことを懐かしそうに話した。「1953年ごろに都城の県境にある建物の舞台で人形劇をした記憶がある」とも話した。人形座で使用した人形の一部は、現在滋賀県にある人形劇の図書館に保管してもらっているという情報も得た。そして、石井氏に教えていただいた人形座再発見の会が作成した書籍『人形座再発見』¹²を入手した。この部分は、小室氏の人生では初期にあたり、粗削りながら小室の表現技術の巧みさはすでに確立していたことを人形作品が教えてくれる。

そして、MOMプロダクションの後に小室氏が活動したビデオ東京については、彩工房の中根雅子氏がビデオ東京の代表である河野秋知氏のご子息を紹介してくださった。今回多くの関係者に調査をしたが、複数の方から「素晴らしいからぜひ上映してほしい」という声が上がったのが「てんまのとらやん」だった。映像を入手してみると、確かに60年近く前に制作されたとは思えない洗練ぶりであった。

MOMプロダクション時代に、小室氏が手掛けた仕事の一つにテレビ番組「コメットさん」の人形がある。これについては、コメットさん研究家の靱山幸士氏が連絡をとれること

¹² 人形座再発見の会（責任 田畑精一）『人形再発見』2004年。

になり、国際放映の許諾も得て、人形や関連資料の展示ができることとなった。

また、小室氏は退職後にご子息が住む日南市へ移住し、フリーランスで東京の劇団の依頼を受けて人形製作をしていたことが判明した。晩年を過ごした日南市のご自宅には、小室氏が手掛けた人形についてのデザイン画が保管されていた。

こうして、MOM プロダクション時代の活躍から小室氏の存在を知った筆者は、小室氏が大学時代に人形劇に出会い、人形座に入団し、「春楡の上の太陽」でモシロアシタ役を演じた操演者の河合さき子と結婚し、MOMプロダクションでのアメリカの映像作品や、日本のテレビ番組やCM、ビデオ東京での映像作品で人形をつくり、65歳で宮崎県に移住してもなお、人形劇の人形を製作し続けたという、一人の人形作家の生き様を見た。

日本の人形アニメーション創成期を考えると、人形作家や人形師として川本喜八郎氏（1925-2010）や辻村寿三郎氏（1933-2023）の名前が挙がる。同じ時代に活躍したのにも関わらず、小室の名前がこれまで一般的に知られなかったことには複数の理由が考えられる。

ひとつは、小室が「人形をつくる行為」にしか携わらなかったことである。周知のとおり、川本喜八郎氏は人形製作ののちに自らプロダクションを設立し、アニメーション作家として人形を用いたテレビ番組やCM、絵本などの制作に関わった。NHK「三国志」や「平家物語」の人形美術を担当し、特に1976年の「道成寺」は芸術的な評価が高い。一方、辻村寿三郎氏は寺山修司氏の脚本や蜷川幸雄氏の演出の作品に参加し、またNHK「新八犬伝」や「真田十勇士」などの連続番組を手掛けている。数々の映画や舞台において衣裳デザインを担当し、着物デザイン、演出、脚本、人形芝居の上演など多岐に渡って活躍したことも知られている。

もうひとつは、小室の表現が「日本的でなかった」ことに起因するだろう。先述した二人の代表作が日本的なモチーフを題材とした物語であったことと対称的に、小室の代表作での人形表現には「てんまのとらやん」の他に、日本的な要素が見受けられない。

小室が西洋的な題材を得意とした背景には、本人が西部劇を好きだったことがある。これは、MOMプロダクション時代を共にした田畑博司氏が本展を機に記した原稿に触れている。

小室一郎は大変な西部劇マニア！小室さんは西部劇が大好きで、ジョンフォードの作品が好きだった様だ。仕事場にも、拳銃やガンベルト、乗馬用ブーツ、中折れ帽とかいろいろグッツ（原文ママ）が置いてあり、時によっては、ピストルを抜く早業を見せて自慢していた¹³。

しかしながら、先述の2名とは共通点もある。川本喜八郎氏はMOMプロダクションがラ

¹³ 田畑博司氏が角和博氏宛てに郵送した原稿用紙、2025年10月14日。

ンキンバス社から依頼を受けるきっかけとなった作品「ちびくろさんぼのとらたいじ」（1956年）の人形製作を手掛けている。また、辻村寿三郎氏は1954年に人形座に研究生として入団しており、その後、藤浪小道具に就職。1959年に独立し、人形作家として本格的に歩み始めている。つまり、人形座やMOMプロダクションで、ほんの少しではあるが、交差する瞬間はあったのである。

小室一郎についての調査は、いまようやくスタート地点に立ったところだと思う。当時を知る関係者はご高齢となっており、すでに他界している方も多し。そのなかで作品の所在地や資料による情報が判明し、小室の所属先の変遷や、手掛けた作品を時系列に整理することができたのは幸運であったといえるだろう。

小室は愛知大学在学中に児童文学研究会に入っており、当時「人形劇団プークによる『オペルと象』を観て人形の可能性に痺れた」¹⁴と人形劇との出会いについて言及している。その後、大学を中退し¹⁵、上京して人形座に入団する。その経緯について、本展を機に寄せていただいた情報や資料によって詳細が判明した。小室の在学中に愛知大学事件が起き、小室は帰郷していたにも関わらず関係者にされてしまったという。容疑は晴れたが、その一件によって就職は難しくなってしまった。それを理由に父親の了承を得て、演劇雑誌で知った人形座に行き、入れてもらったという¹⁶。小室は息子の工に、よく「俺は大学の在り方に疑問を感じて中退した」と自慢していたそう¹⁷。

小室の手掛ける人形の特徴のひとつに、人形の丸みをおびた美しさや、キリリとした大きな目がある。それぞれの演出家や監督からの要望はあったはずなので（実際にMOMプロダクションやテレビ番組「コメットさん」ではラフ画のようなイメージが存在した¹⁸）、もちろん作品によって大きくビジュアルは異なるのだが、根底に共通する愛らしさとフォルムがある。「赤鼻のトナカイ ルドルフ」のフォルムについて小室はこう語っている。

僕は基本的に人形は球体、丸さを意識して作るのですが、中でも「ルドルフ」はその作品が持つ優しさや可愛らしさと、人形が最もマッチしていたと思う一番大切な作品です¹⁹。

また、人形座時代には1958年の作品「錦の中の仙女」について小室はこう語っている。

¹⁴ 『Picture Friends005 Rudolph The Red-Nosed Reindeer ルドルフ 赤鼻のトナカイ』プチグラパブリッシング、2006年。

¹⁵ 小室工氏への聞き取り、メールにて、2025年8月29日。

¹⁶ 『日本人形劇人No.84』2006年、p10。

¹⁷ 小室工氏への聞き取り、メールにて、2025年8月29日。

¹⁸ 本展にて展示された「コメットさん」の台本にも書き込みが確認された。

¹⁹ 『Picture Friends005 Rudolph The Red-Nosed Reindeer ルドルフ 赤鼻のトナカイ』プチグラパブリッシング、2006年。

日本人の顔を鋭く大胆にしかも豊かに彫り上げた文楽や能面のすぐれた形象を手本に持ち得ましたし、それ等の持つ様式に学びながら、民族的な、新しいスタイルを生み出さなければ、現代の日本の人形劇とはなり得ないことも知りました²⁰。

石井マリ子の文章によると、人形座は1952年3月26日に創立し、5月5日に「あゆみ」を初演。その1か月後に小室一郎が美術の新人として入団した²¹。プークに憧れていた小室は、演劇雑誌で人形座を知り、入団。演出がやりたかったが大学で制作した人形を見せたら美術部になってしまったという。アコーディオンを練習して弾けるようになり、演奏係として上演班に入り旅にも出た²²。

小室が晩年生活をしていた宮崎の自宅で見つかった154枚のデザイン画によって（本展では、うち9枚を展示）、小室がどのような仕事に携わり、どのキャラクターに思い入れがあり、どのように作風が変遷していったかを理解することができた。また、小室のひとつの信念のようなものを感じとることができ、それは展覧会の準備が進むにつれて確信に変わった。それは醜いものや悲哀あるものに対しての、小室の思い入れである。華やかな主人公たちに対しては、追求された丸みと愛らしさで職人的に完成度の高いキャラクターを実現する一方で、物語の肝となる、決して好かれてはいえない、あるいは決して幸せとはいえないキャラクターたちに対しての小室の寄り添い方と、生き生きとした描写に、小室の人形作家としてのアイデンティティが見てとれる。晩年のアメリカからのインタビューにはこう答えている。

私はたくさんアメリカ映画を観ましたが、今でも多くの脇役の名前を覚えています²³。

幼少期にポリオに感染し、左手と左足の麻痺が残るなかで、生涯人形作家として貫き通した小室一郎。小室の表現は、ハンデの有無も、主役脇役も、日本らしさも関係ないところにある。監督や演出家の世界観を尊重しつつ、一人ひとりのキャラクターの個性そのものを大切に、人形を形づくっていったこと、それこそが小室の作家性であるといえるだろう。

²⁰ 人形座再発見の会『人形座再発見』2004年、p.12。

²¹ 『日本人形劇人 2006年6月』「私の人形劇史」p.7。

²² 同上、p.10。

²³ 『THE MAKING OF THE RANKIN/BASS HOLIDAY CLASSIC: RUDOLPH THE RED-NOSED REINDEER (English Edition)』 miserbrospress,2001。

年譜

小室一郎 年譜

	人形を手掛けた作品	関連する出来事
1930年	小室興（さかん）・敏子の長男として日本統治時代の台湾で生まれる。	
1933年	ポリオに感染し小児麻痺を発症、左手・左足の麻痺が残る。	
1937年	台湾日本人学校小学部に入学。	
1939年		第二次世界大戦が勃発する。
1945年	終戦前に帰国、父の姉が住んでいた熊本県で生活する。	終戦。
1948年	愛知大学に入学。 学生人形劇サークルに参加。 愛知大学を退学(退学年は不明)。	
1951年	劇団の後輩だった、さき子と結婚。	
1952年	上京し人形座に入団。	人形座が創立する。
1953年	大樽小樽	人形座 NHKテレビ、日本テレビが放送を開始。
1954年		人形座が劇団活動を評価され、第4回東京と児童演劇コンクール奨励賞を受賞する。
1955年	一寸法師	人形座
1956年		宮崎県教組が県内全小学校の演劇教室として人形座を取り上げ、1962年まで毎年3か月のスケジュールで巡演。「小さいお城」を上演（69日）。
1957年	おかあさんの錦	人形座
1958年	錦の中の仙女	人形座
1959年	春楡の上に太陽	人形座
1960年		ニューヨークでランキンバスプロダクションが設立。
1960年		MOMプロダクションが設立。
1960年		NHKがカラー放送を開始。
1960年		人形座が宮崎県内で「ホップ・ステップ・ジャンプくん」を上演。
1961年	MOMプロダクションで人形製作を開始。	ピノキオ MOMプロダクション
1962年		ウィリーのタイムマシン MOMプロダクション
1962年		ヘンゼルとグレーテル 人形座
1963年		日本初のテレビ長編アニメーション「鉄腕アトム」が放送開始。
1963年	息子の工（こう）が誕生する。	人形座が解散する。
1964年		ルドルフ・赤鼻のトナカイ MOMプロダクション
1964年～	モモちゃんとかかちゃんシリーズ	講談社
2003年		

年譜

	人形を手掛けた作品		関連する出来事
1967年			持永只仁がMOMプロダクションを退社。
1967年～ 1968年	コメットさん	国際放映株式会社	
1968年	ビデオ東京で人形製作を開始。		
1970年	サンタが街にやってくる	MOMプロダクション	MOMプロダクションが解散、改めてビデオ東京を編成。代表取締役は河野秋和。
1971年	てんまのとらやん	ビデオ東京	
1975年	最初の雪降るクリスマス	ビデオ東京	
1977年	ネスター、長い耳のクリスマスロバ	ビデオ東京	
1979年	12少年漂流記	カレンダー写真	
1979年	ルドルフとフロステイの7月のクリスマス	ビデオ東京	
1981年	レプリカンのクリスマスワールド	ビデオ東京	
1984年	べっかんこ鬼	ビデオ東京	
1984年	ラカルトニュー5	エスエス製薬	
1986年	お月さんもいろいろ	ビデオ東京	
1992年	ある島のきつね	ビデオ東京	
1993年	竜子姫物語	劇団員の火	
1995年	埼玉県所沢市の自宅を引き払い、息子の住む宮崎県日南市に移住。フリーランスとして舞台の人形を製作。		
1999年			持永只仁没。
2002年	ヘンゼルとグレーテル	オフィスやまいも	
			『人形座再発見』が発行される。発行者は人形座再発見の会、責任者は田畑精一。小室一郎の名前の記載あり。
2011年	長ぐつをはいたねこ	オフィスやまいも	
2011年	宮崎県日南市で没する。		
2014年			アーサー・ランキン・Jr没。
2017年			東京国立近代美術館が「人形アニメーション作家 持永只仁展」を開催。/東京国立近代美術館フィルムセンター 展示室（企画展）
2018年			『ユリイカ7月臨時増刊号 総特集◎高畑勲の世界』（第50巻第10号）にて人形劇「春楡の上に太陽」が紹介される。小室一郎の名前の記載あり。
2022年			ジュール・パス没。

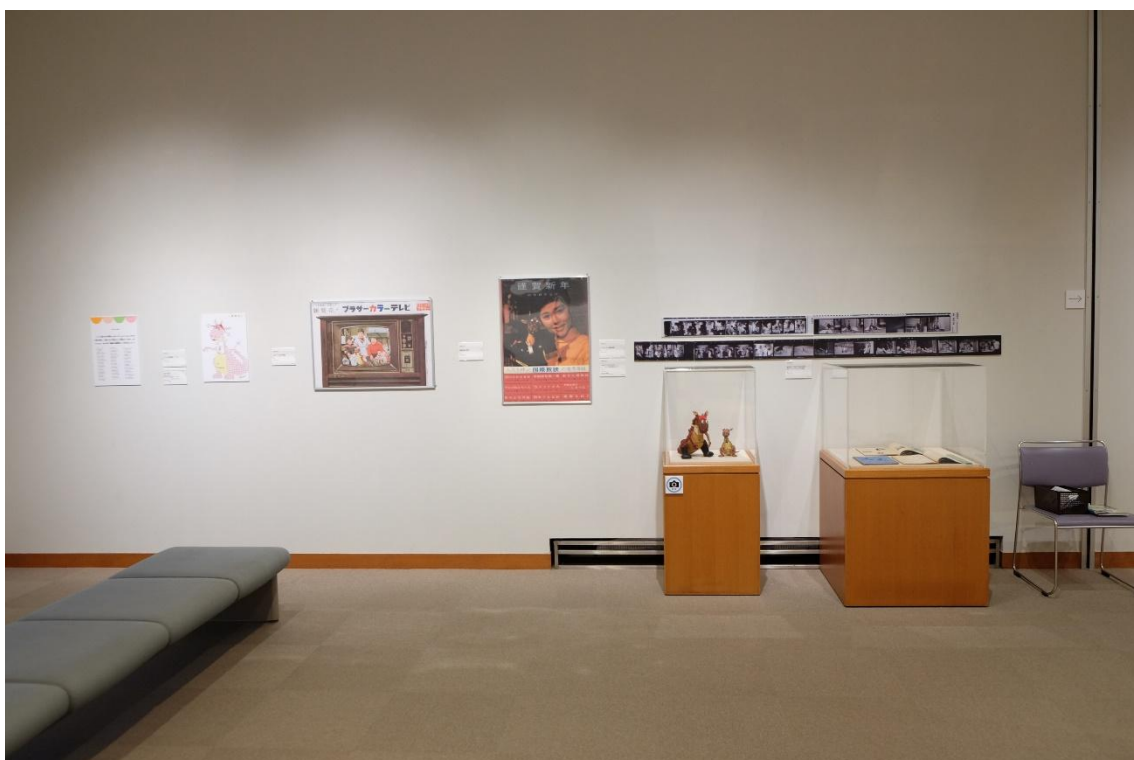
※原則として作品名は公開年を記載しています

²⁴ 「12少年漂流記」（1979年）については、その後の調査で1983年に日立製品を販売する系列電器店が配布するカレンダーに起用された写真であることが判明した。小室工氏への聞き取り、メールにて、2025年10月31日。

展示風景



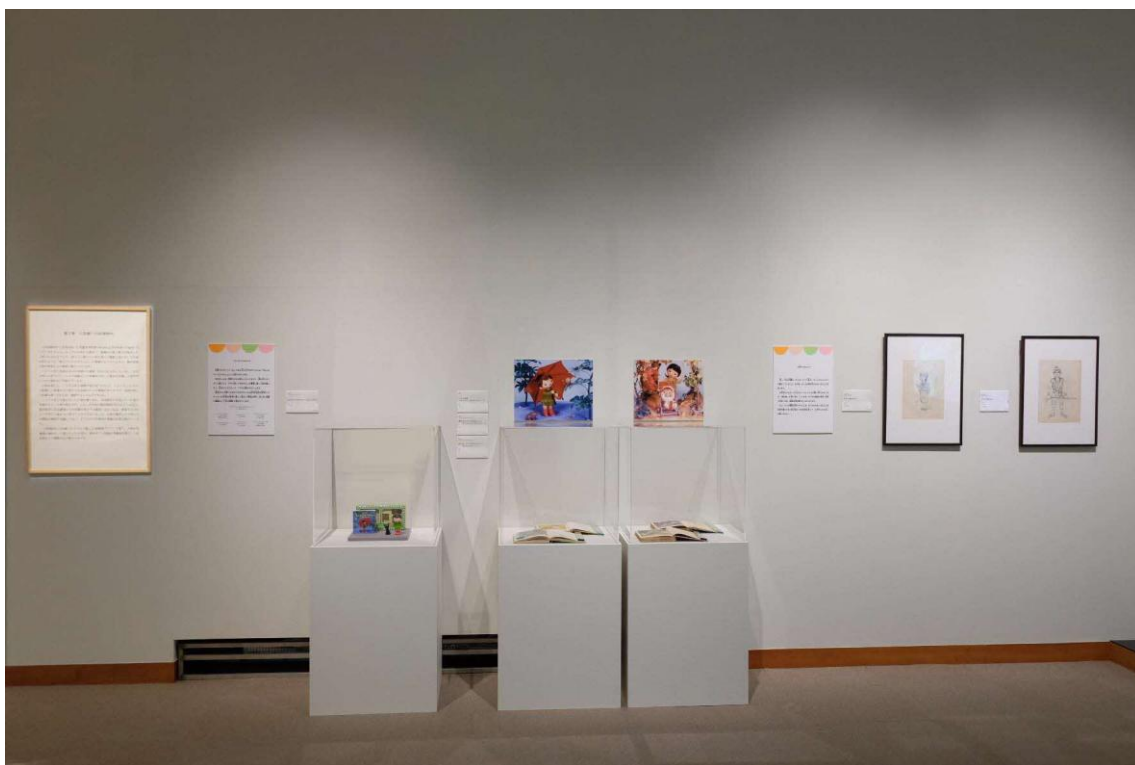
展示風景



展示風景



展示風景



展示風景



高鍋町美術館
TAKANABE MUSEUM OF ART

主催 | 高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町
特別協力 | 持永只仁アニメーション研究会
後援 | 宮崎日日新聞社・夕刊デイリー新聞社・MRT宮崎放送・UMKテレビ宮崎・エフエム宮崎

人形アニメーション創成期の人形作家

小室一郎展

2025.10.11(土) - 11.9(日)

No.	作品・資料名	作家名等	ジャンル	制作会社等	劇名・映像作品名等	制作・上映・放送年
第1章 人形座時代						
1	ポスター 第1回公演「楽しい民話の人形劇」	資料	人形劇	人形座	第1回公演 「楽しい民話の人形劇」	1954年
2	ポスター「錦の中の仙女」	資料	人形劇	人形座	錦の中の仙女	1958年
3	ポスター「春楡の上に太陽」	資料	人形劇	人形座	春楡の上に太陽	1959年
4	人形/モシロアシタ 石井 マリ子旧蔵	小室 一郎	人形劇	人形座	春楡の上に太陽	1959年
5	人形/チキサニ 石井 マリ子旧蔵	小室 一郎	人形劇	人形座	春楡の上に太陽	1959年
6	人形/オキクルミ 石井 マリ子旧蔵	小室 一郎	人形劇	人形座	春楡の上に太陽	1959年
第2章 テレビ・映画人形アニメーション時代						
7	映像「てんまのとらやん」(17分)	資料	短編人形アニメ映画	ビデオ東京	てんまのとらやん	1971年
8	デザイン画(複製)/ベートン	小室 一郎	特撮テレビドラマ	国際放映株式会社	コメットさん	1967-1968年
9	ブラザーカタログ表紙	資料	特撮テレビドラマ	国際放映株式会社	コメットさん	1967-1968年
10	国際放映 年賀状	資料	特撮テレビドラマ	国際放映株式会社	コメットさん	1967-1968年
11	コメットさん撮影風景	資料	特撮テレビドラマ	国際放映株式会社	コメットさん	1967-1968年
12	人形/ベートンAタイプ 築地 米三郎(特撮監督)旧蔵	小室 一郎	特撮テレビドラマ	国際放映株式会社	コメットさん	1967-1968年
13	人形/ベートン第4号ロンパリ 梅村 幹比古(プロデューサー)旧蔵	小室 一郎	特撮テレビドラマ	国際放映株式会社	コメットさん	1967-1968年
14	週刊平凡 1967年9月28日号	資料	特撮テレビドラマ	国際放映株式会社	コメットさん	1967-1968年
15	脚本「コメットさん 14話」	資料	特撮テレビドラマ	国際放映株式会社	コメットさん	1967-1968年
16	脚本「コメットさん 55話」	資料	特撮テレビドラマ	国際放映株式会社	コメットさん	1967-1968年
17	デザイン画/ルドルフ 小室 一郎旧蔵	小室 一郎	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ルドルフとフロステイの 7月のクリスマス	1979年
18	デザイン画/フロステイ 小室 一郎旧蔵	小室 一郎	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ルドルフとフロステイの 7月のクリスマス	1979年
19	人形/サンタクロース 持永 只仁旧蔵	小室 一郎	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ルドルフ・赤鼻のトナカイ	1964年
20	人形/ドナー(ルドルフの父) 持永 只仁旧蔵	小室 一郎	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ルドルフ・赤鼻のトナカイ	1964年

作品リスト

	作品・資料名	作家名等	ジャンル	制作会社等	劇名・映像作品名等	制作・上映・放送年
21	人形/ミセス・サンタクロース 持永 只仁旧蔵	小室 一郎	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ルドルフ・赤鼻のトナカイ	1964年
22	デザイン画/デンティ・ドイルと レプリカンのブルーニー 小室 一郎旧蔵	小室 一郎	人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	レプリカンのクリスマスゴールド	1981年
23	MOMプロダクション写真資料 (パネル2点)	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	—	—
24	台本「ルドルフ・赤鼻のトナカイ」	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ルドルフ・赤鼻のトナカイ	1964年
25	絵コンテ「ルドルフ・赤鼻のトナカイ」	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ルドルフ・赤鼻のトナカイ	1964年
26	構造図/ルドルフ	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ルドルフ・赤鼻のトナカイ	1964年
27	人形デザインに関する資料/ フランケンシュタイン	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	マッド・モンスター・パーティー (怪物の狂宴)	1967年
28	人形デザインに関する資料/少年	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	マッド・モンスター・パーティー (怪物の狂宴)	1967年
29	絵コンテ 「ウィリー・マックビーンと魔法の機械」	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ウィリー・マックビーンと 魔法の機械	1970年
30	MOMプロダクションおよびビデオ東京の 写真資料(4点)	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	—	—
31	スチール写真 「ウィリー・マックビーンと魔法の機械」(2点)	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ウィリー・マックビーンと 魔法の機械	1970年
32	人形/ウィリー少年(タイム・マシンあり) 持永 只仁旧蔵	小室 一郎	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ウィリー・マックビーンと 魔法の機械	1970年
33	人形/ウィリー少年(タイム・マシンなし) 持永 只仁旧蔵	小室 一郎	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ウィリー・マックビーンと 魔法の機械	1970年
34	人形/紳士(鐘) 持永 只仁旧蔵	小室 一郎	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ウィリー・マックビーンと 魔法の機械	1970年
35	人形/紳士(赤い服) 持永 只仁旧蔵	小室 一郎	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ウィリー・マックビーンと 魔法の機械	1970年
36	スチール写真 「ウィリー・マックビーンと魔法の機械」(3点)	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ウィリー・マックビーンと 魔法の機械	1970年
37	映像 「人形誕生CM製作の記録(田無スタジオ)」 (約7分)	資料	記録映像	田畑 博司	—	1964年
38	スチール写真「ピノキオの冒険」	資料	テレビ人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ピノキオの冒険	1960-1961年
39	スチール写真「サンタが街にやってくる」	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	サンタが街にやってくる	1970年
40	スチール写真「最初の雪降るクリスマス」	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	最初の雪降るクリスマス	1975年
41	レーザー・ディスク 「赤鼻のトナカイ ルドルフ物語」	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ルドルフ・赤鼻のトナカイ	1964年
42	DVD「ルドルフ・赤鼻のトナカイ」	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ルドルフ・赤鼻のトナカイ	1992年
43	絵本「ルドルフ・赤鼻のトナカイ」	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ルドルフ・赤鼻のトナカイ	1964年
44	絵本「ルドルフ・赤鼻のトナカイ」	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	ルドルフ・赤鼻のトナカイ	2006年

作品リスト

作品・資料名	作家名等	ジャンル	制作会社等	劇名・映像作品名等	制作・上映・放送年
45 DVD「サンタが街にやってくる」	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	サンタが町にやってくる	1970年
46 ブルーレイ・ディスク 「マッド・モンスター・パーティー (怪物の狂宴)」	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	マッド・モンスター・パーティー (怪物の狂宴)	1967年
47 DVDセット「クリスマス・クラシック」	資料	長編人形アニメ映画	ランキン・バスプロダクション /MOMプロダクション	—	—
48 ブルーレイ・ディスク 「ナイトメアー・ピフォア・クリスマス」 (ティム・バートン関連資料)	資料	長編人形アニメ映画	—	—	1993年
49 ユリイカ7月臨時増刊号 第50巻第10号 (高畑勲関連資料)	資料	—	—	—	2018年
第3章 人形劇への回帰時代					
50 絵本 「ちいさいモモちゃん にんぎょうえほん」	資料	絵本	講談社	モモちゃんとアカネちゃん シリーズ	2003年
51 スチール写真 「モモちゃんとアカネちゃんシリーズ」(2点)	資料	絵本	講談社	モモちゃんとアカネちゃん シリーズ	1974年
52 絵本「ちいさいモモちゃん」	資料	絵本	講談社	モモちゃんとアカネちゃん シリーズ	1974年
53 絵本「モモちゃんとアカネちゃん」	資料	絵本	講談社	モモちゃんとアカネちゃん シリーズ	1974年
54 絵本「ちいさいアカネちゃん」	資料	絵本	講談社	モモちゃんとアカネちゃん シリーズ	1978年
55 絵本「モモちゃんとプー」	資料	絵本	講談社	モモちゃんとアカネちゃん シリーズ	1974年
56 デザイン画/おりの 小室 一郎旧蔵	小室 一郎	人形アニメ映画	ビデオ東京	お月さんももいる	1986年
57 デザイン画/与吉 小室 一郎旧蔵	小室 一郎	人形アニメ映画	ビデオ東京	お月さんももいる	1986年
58 映像「電子姘物語」(35分)	資料	人形劇	劇団員の火	電子姘物語	1993年
59 映像「ハンゼルとグレーテル」(45分)	資料	人形劇	オフィスやまいも	ハンゼルとグレーテル	2002年
60 映像「長ぐつをはいたねこ」(46分)	資料	人形劇	オフィスやまいも	長ぐつをはいたねこ	2011年
61 デザイン画/きつね 小室 一郎旧蔵	小室 一郎	人形アニメ映画	ビデオ東京	ある島のきつね	1992年
62 デザイン画/少女 小室 一郎旧蔵	小室 一郎	人形アニメ映画	ビデオ東京	ある島のきつね	1992年
63 デザイン画/べっかんこ鬼 小室 一郎旧蔵	小室 一郎	人形アニメ映画	ビデオ東京	べっかんこ鬼	1984年
64 デザイン画/ゆき 小室 一郎旧蔵	小室 一郎	人形アニメ映画	ビデオ東京	べっかんこ鬼	1984年
65 「ハンゼルとグレーテル」 制作風景写真(4点)	資料	人形劇	オフィスやまいも	ハンゼルとグレーテル	2001年

高鍋町美術館
TAKANABE MUSEUM OF ART

人形アニメーション創成期の人形作家

小室一郎展

2025. 10. 11 土 — 11. 9 日



ルドルフ 赤鼻のトナカイ (1964)

開館時間：午前10時～午後5時（入館は午後4時30分）

会場：高鍋町美術館

休館日：毎週月曜日（祝日は除く）・祝日の翌日（土日は除く）

観覧料：大人500円（400円）小中高生・高齢者・障がい者250円（200円）

※（ ）内は20名以上の団体料金またはJAF会員証をご提示の方。高齢者は70歳以上。障がい者は障がい者手帳所持者とその介護者1名まで。未就学児と高鍋町在住または高鍋町内の学校に在籍する小中高生および特別支援学校生は無料。

主催 高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

特別協力 持永只仁アニメーション研究会

後援 宮崎日日新聞社・夕刊デイリー新聞社・MRT 宮崎放送・UMK テレビ宮崎・エフエム宮崎

上から

1.2.ある島のきつね (1992) 3.4.ルドルフとフロスティの7月のクリスマス (1979) 5.6.べっかんこ鬼 (1984) 7.レプリカンのクリスマスゴールド (1981)

11.3月・祝日は開館記念日
観覧料無料



展覧会概要

小室一郎は1930年、台湾に生まれました。1952年に、戦後人形劇の歴史において画期的な活動を展開した劇団「人形座」に入団。小室が人形を手掛けた人形劇「春楡の上に太陽」(1959年)は、高畑勲が演出した「太陽の王子 ホルスの大冒険」のモチーフとなりました。その後はMOMプロダクションやビデオ東京などで人形映画の人形を制作しました。特に、人形アニメーションという新分野を切り開き、少年時代の**ティム・バートン**監督にも強い影響を与えた日本アニメーション監督の**持永只仁**とのタッグで手掛けた、「ルドルフ 赤鼻のトナカイ」(1964年)を初めとするアメリカのテレビや劇場のための作品は今なお世界中で愛されています。

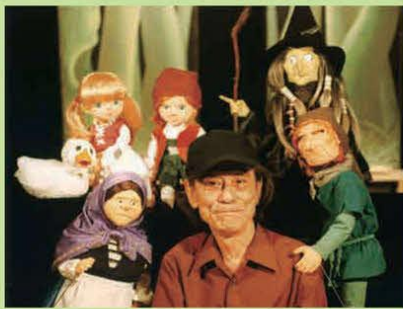
本展は、日本の人形アニメーション創成期において重要な役割を果たした小室一郎の、人形作家としての初期から晩年までの活動を整理し、当時の貴重な人形作品、ポスター、スチール写真、資料を一堂に展示する、初開催の展覧会です。



ウィリーのタイムマシーン (1962)

当時の貴重な人形劇、アニメーション、製作風景を一挙上映！

小室一郎略歴



小室一郎とヘンゼルとグレーテルの人形 (2001)

- 1930年 台湾で生まれる
- 1933年 ポリオに感染し小児麻痺を発症
左手・左足の麻痺が残る
- 1945年 終戦前に帰国、熊本県で生活する
- 1948年 愛知大学に入学
学生人形劇サークルに参加
- 1952年 上京し人形座に入団
- 1960年 MOMプロダクションで人形製作を開始
- 1968年 ビデオ東京で人形製作を開始
- 1995年 宮崎県日南市に移住し
フリーランスとして舞台の人形を製作
- 2011年 宮崎県日南市で没する

担当した主な作品



お月さんももいろ (1986)

- 【劇】大樽小樽 (1953)
- 【劇】一寸法師 (1955)
- 【劇】おかあさんの錦 (1957)
- 【劇】錦のなかの仙女 (1958)
- 【劇】春楡の上に太陽 (1959)
- 【映画】ウィリーのタイムマシーン (1962)
- 【映画】てんまのどろやん (1971)
- 【映画】くるみ割り人形 (1979)
- 【テレビ】ピノキオ (1961)
- 【テレビ】ルドルフ 赤鼻のトナカイ (1964)
- 【テレビ】コメットさん (1967～1968)
- 【絵本】ちいさいももちゃん (1964)
- 【絵本】みみちゃん (1974) など

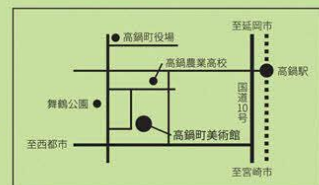
高鍋町美術館

TAKANABE MUSEUM OF ART

宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋 6916 番地 1
TEL.0983-23-8887 FAX.0983-23-8890

交通案内

- タクシー
JR高鍋駅から約10分
- バス
JR高鍋駅から宮崎交通バス「一丁田經由西都行き」で「舞鶴公園前」下車徒歩3分または、「養崎」下車徒歩1分



展覧会情報

人形アニメーション創成期の人形作家 小室一郎展

会 期 令和7年10月11日(土)～11月9日(日)

開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休 館 日 毎週月曜日(祝日の場合は開館) 祝日の翌日(土日の場合は開館)

観覧料

大人 500円(400円)

小中高生・高齢者・障がい者 250円(200円)

※()内は20名以上の団体料金またはJAF会員証をご提示の方。高齢者は70歳以上、障がい者は障がい者手帳所持者とその介護者1名まで。未就学児と高鍋町在住または高鍋町内の学校に在籍する小中高生および特別支援学校生は無料。

会 場 高鍋町美術館

主 催 高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

後 援 宮崎日日新聞社・夕刊デイリー新聞社・MRT宮崎放送・UMKテレビ宮崎
・エフエム宮崎

作品数 75点

職員(令和7年度)

館 長 島埜内 遵

副館長 佐藤 英伸

総務学芸係

係 長 小森 隼

学芸員 青井 美保

事務員 久家 多佳恵

写真提供

写真提供

梶山幸士 (pp.10-11)

田畑博司・田畑京子 (p.19)

田川和生 (pp.21-22)

田畑京子 (pp.23-30)

人形劇団オフィスやまいも (pp.30-33)

令和8年2月印刷

令和8年2月発行

発行者 高鍋町美術館

宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋 6916 番地 1

TEL0983 (23) 8887

印刷者 高鍋町美術館

宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋 6916 番地 1

TEL0983 (23) 8887

Printed in Japan ©高鍋町美術館 2026 ©2026,Takanabe Museum Of Art
